



市民活動のシンボルマーク「あの手この手」
Solution(解決)のSを表しています。

大和市
令和3年度

市民活動推進補助金 事業報告書



大和市イベントキャラクター ヤマトン

大和市 市民活動課 / 大和市民活動センター

「地域で多様性を認める子育て」推進事業
[やまと療育教育推進プロジェクト]



大和市イベントキャラクター ヤマトン

事業報告書

団体名	やまと療育教育推進プロジェクト
事業名称	「地域で多様性を認める子育て」推進事業
補助区分	めばえ ・ はぐくみ
補助金額	200,000 円
事業の目的	地域における多様性を認める子育てを推進すべく、それぞれの子どもが認められ、その子らしく過ごせるように、療育と教育との繋がりを軸に、「学ぶ・出会う」という活動を通して地域づくりをすること。
事業の内容	<p>上記の目的を達成するために、子どもを取り巻く大人が、①正しい理解を深め、②あたたかな繋がりを持つための活動を行った。</p> <p>① 学ぶ (正しい理解を深める) 我が子、友だちの子ども、地域の子どものために学び、サポーターになることを目的として、おうちの方・地域の方・支援者の方を対象とし、特別支援に関する基礎的な知識を学ぶ全7回の「発達サポーター育星基礎講座a」を以下の日程、内容で開催した。</p> <p>5月31日(月)特別支援教育 6月28日(月)子どもの発達 7月12日(月)診断と発達評価の仕方 9月6日(月)資質と環境、教育環境の整え方、連携の仕方 2月7日(月)障害特性の理解 ASD 2月14日(月)障害特性の理解 ASD(2) 2月28日(月)障害特性の理解 ADHD</p> <p>② 出会う (あたたかな繋がりを持つ) 「多様性を認める子育て」を大きな軸として毎回テーマを決めて懇談会を開き、あたたかな繋がりを作る。 「発達支援・合理的配慮・余暇支援・コミュニケーション・子どもとの関わり方・環境整備」などのテーマに合わせて、ゲストスピーカー(専門家・経験者など)に来てもらい、情報の共有やテーマを決めて話し合うことのできる繋がり場を作った。おうちの方向け、支援者向けとそれぞれに開催した。</p> <p>【おうちの方向け】 6月21日(月)多様性を認める子育て「子育ての悩みとアセスメントの仕方」 小林 瞳 10月18日(月)多様性を認める子育て「発達サポーター育星講座の内容・感想交流とお子さんのこと」 小林 瞳 11月28日(月)多様性を認める子育て「合理的配慮と違うことは強いこ</p>

	<p>と」ゲスト：大和市発達支援事業所所長 山田兼右さん 1月21日(金)多様性を認める子育て「大和市の学校などで行われている支援や制度について」ゲスト：市議会議員 布瀬めぐみさん</p> <p>【支援者向け】 12月15日(水)支援者の会「発達障がいの支援の基本と支援者としての悩み」 小林 瞳</p>	
実施場所	シリウス・オンライン zoom	
参加人数	64名	
事業実施の経過	実施日時	実施内容
	4月4日(日)	打ち合わせ
	4月12日(月)	打ち合わせ
	4月21日	チラシ作成・発注
	5月中	チラシ配布
	5月21日(金)	打ち合わせ
	5月31日(月)	発達サポーター育星基礎講座 a 1 回目 打ち合わせ
	6月21日(月)	多様性を認める子育て 1 回目
	6月28日(月)	発達サポーター育星基礎講座 a2 回目 打ち合わせ
	7月12日(月)	打ち合わせ 発達サポーター育星基礎講座 a3 回目
	8月30(月)	打ち合わせ
	9月6日(月)	発達サポーター育星基礎講座 a4 回目 打ち合わせ
	10月1日(金)	打ち合わせ
	10月18日(月)	多様性を認める子育て 2 回目
	11月29日(月)	多様性を認める子育て 3 回目 打ち合わせ
	12月13日(月)	打ち合わせ
	12月15日(水)	支援者の会 1 回目
	1月17日(月)	打ち合わせ
	1月21日(金)	多様性を認める子育て 4 回目
	2月7日(月)	発達サポーター育星基礎講座 a5 回目 打ち合わせ
2月14日(月)	発達サポーター育星基礎講座 a6 回目 打ち合わせ	
2月28日(月)	発達サポーター育星基礎講座 a7 回目 事業全体の振り返り	
3月4日(金)	報告書作成	
事業の成果	<p>「発達サポーター育星講座基礎 a」は、全7回とも50名様満席という申し込み状況であった。 「多様性を認める子育て」「支援者の会」も新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら開催することができた。</p>	

	大和市の子どもを取り巻く大人が、発達多様性についての①正しい理解を深め、②あたたかなつながりを持つための1歩を踏み出すことができた。
--	--

◆事業のふりかえり

<p>事業の必要性や市民のニーズを感じましたか（公益性）</p> <p>「発達サポーター育星講座基礎a」が、全7回とも50名様満席という申し込み状況であったことから、大和市におけるこの事業の必要性を強く感じた。</p> <p>最初は、おうちの方のみを対象として考えていたが、大和市在勤の方、さらには近隣の市在住・在勤の方からもお問い合わせがあったことからニーズの高さが伺えた。今年度は補助金事業ということで、大和市在勤の方にも対象を広げ、広く市民に還元することができた。</p>
<p>当初計画したスケジュールどおり実施できましたか（計画性）</p> <p>「発達サポーター育星講座基礎a」は、年明けの新型コロナウイルスの感染拡大により、急加者の安心・安全を考え、シリウス会場とオンライン zoom のハイブリッド開催から、全員オンライン zoom への開催に切り替えて実施した。</p> <p>保護者の不安や悩みを聞くことで、保護者が安心して子育てするための一助となった。</p> <p>with コロナ時代の今、安心・安全に配慮しながらどのような形で保護者や地域の方が子育てをするためのあたたかな繋がりをもっていくかが大きな課題である。</p>
<p>スタッフの能力を発揮して効果的にPRや事業が実施できましたか（能力）</p> <p>今年度は、当団体のメンバーが2人に減った中での開催だったが、お互い忙しいながらも分担し、効果的なPRや事業をすることができた。PRについては、SNS、口コミの他、指導室、すくすく子育て課、保育課、こども・青少年課の皆様チラシの配布をご協力いただいたことが効果的なPRにつながり感謝している。「発達サポーター育星講座基礎a」は全7回とも50名様満席という申し込み状況であった。保護者や支援者向けのつながりの会もコロナの感染状況を考慮しながら開催することができた。</p>
<p>当初の予算どおり実施できましたか（費用の妥当性）</p> <p>当初の予算では、連続講座が30名の予定で予算立てしていたが、ニーズが高く参加希望者が多数だったため、会場とオンラインと合わせて50名まで枠を広げて開催することになった。参加人数が増えたことで、収入の面でも大幅に増加したが、その分講師への謝金も1名に対しての計算となるため増加している。後半は再びコロナの感染拡大により、全員オンラインへと切り替えての実施となったため、会場費や交通費が少なくなった。予想よりもニーズが高かったことと、コロナ禍で予定を変更せざるを得なかったことでの影響を受けた。</p>
<p>今後事業の継続が期待できそうですか（継続性）</p> <p>来年度も明星大学の星山麻木先生をお迎えし、「発達サポーター育星講座基礎b」を、2023年度は、「発達サポーター育星講座基礎c」を開催する予定である。やまと療育教育推進プロジェクトは来年度から任意団体として活動をしていく。プロジェクトの事務やzoomの操作補助などに関しては、このプロジェクトの目的に共感してくださる方が申し出てくださり、お願いすることとなった。この事業を通し、発達障がいについての基本的な知識や対応を学んだおうちの方や地域の方、支援者の方、懇談会に参加して下さったおうちの方、支援者の方それぞれが繋がることで、子どもたちを見守り育てるあたたかい繋がりを継続的に作っていく。</p>

市民活動推進補助金に関するお問い合わせは

大和市役所 市民活動課

協働・ボランティア・県人会・市民活動支援係

☎046-260-5103

大和市民活動センター

☎046-260-2586